この経験から私は、音楽は奥の深いものだと感じました。ただ音符が並んでいるようであっても強弱の変化、音の明るさ、リズムの違いなどを感じ取って聞くことで、今までとは違う角度で音楽を楽しむことができます。みなさんも、今まではただ聴き流していた曲を、一度違う角度で聴いてほしいと思います。そして「心と体で音楽の流れを感じる」ことを試みてほしいのです。そうすれば、その曲の新たな良さ、味わいの深さ、本当の意味を感じることができるのではないでしょうか。

## 「家が大好きだから」　富合中学校　３年　改原　鵬

みなさんは今、自分が住んでいる町についてどう思いますか。私はこの質問を自分に問いかけてみたところ、このような結果になりました。「私にとって富合町はとても大切なものだけど正直好きじゃない」私がこう思い始めたきっかけは散歩中です。田んぼ道をひとり歩き、富合の心地よい風にあたり、日頃の疲れをその風が取り除いてくれているときでした。ふと周りを見回すと目の前には雄大な雁回山と、たくさんの田畑が私を見守ってくれていました。でも何かが違う、少し別の雰囲気を持った富合町だと言うことに気付きました。そして次第に「ここは私の大好きな富合町じゃない」と思うようになったのです。私が大好きな富合町は、自然に囲まれ、見渡す限り広がる田畑があって、歴史を感じさせる町です。雁回山や多くの田んぼは四季折々いろんな表情を見せ、春は桜、夏は緑色の葉、秋には赤や茶色の紅葉、冬には葉を落とします。田んぼの小さな苗は秋になると黄金色に揺れ、「やっぱり富合町はいいなぁ」と幸せな気分になります。私が幼かった頃は、壮大は田園の中にぽつぽつと木造の家があり、道も砂利や土で出来ていました。それはまるで「となりのトトロ」に出てきそうなくらい美しい景色でした。しかし現在は町の人口も増え、きれいな家が建ち並ぶ住宅地やコンビニやお店が急激に増え、そして「新幹線車両基地」が出来ました。

初めての見学では新幹線「さくら」を見て感動しました。博多まで30分で行くことが出来ます。そんなすごいことに富合町が携わっていることを知り、少し鼻が高い気持ちになりました。でも「人」にとって便利なものを得た代わりに失ったものがありました。それは何だか分かりますか。答えは車両基地より奥の景色です。美しい田園風景がコンクリートで出来た大きな壁によって遮られてしまったのです。私にとって、とてもショックな出来事でした。富合町にいろんな建物が建っていく中、美しい風景が、人のために造られたコンクリートのかたまりによって台無しにされてしまいました。今では「新幹線車両基地なんていらないのに・・」と思うようになってしまいました。

富合町の一番いいところは自然に恵まれているところです。つまりこの町の「自然」はもうこれ以上失ってはいけないということです。「歴史」や「伝統」も同じです。今、世界では「地球温暖化」や「森林破壊」などが大きな問題となっています。そのようなマイナスなことを感じさせないような町づくりをしていくべきだと思います。富合の活性化だけを考え、過剰な行動ばかりとっていると町の魅力はだんだんマイナスの方へ向かいます。どこまで変わるべきか、どこまで変わらず残していくべきかです。富合町にとって大切なことは町の魅力を後世に残し、引き継いでいくことだと思います。私は今後、富合町を愛する一人の住民として、この町を支える柱になっていきたいです。これからも富合町は私の故郷（ふるさと）であり、帰るべき場所、つまり私の「家」なのです。

みなさんは今、自分が住んでいる町についてどう思っていますか。

クラス対抗合唱コンクールは１年生「大空のドーム」2年生「命が羽ばたくとき」3年生「ふるさと」の課題曲と自由曲。ＰＴＡコーラスは「負けないで」「上を向いて歩こう」。富合の美しい歌声でした。

友達をモデルに　いい思い出に

3-1 自由曲「怪獣のバラード」の終わりのポーズ

楽しい曲ですね

3-2　課題曲「ふるさと」

どのような気持ちを込めて！